

集めて
使う
リサイクル

協会報

秋
号

2008.10
Vol.32

特定非営利活動法人／集めて使うリサイクル協会

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋1-3-4 小池高麗橋ビル TEL.06-6209-7155 FAX.06-6209-6685 (東京連絡事務所) TEL.03-3360-1301 FAX.03-3360-7090

2008年度地球環境基金助成事業

「シンポジウム ごみ有料化～その取り組み・成果・課題」

11月26日(水)に東京・大田区産業プラザで開催

集めて使うリサイクル協会では、2008年度地球環境基金助成事業の一環としてとして家庭ごみの有料化に関するシンポジウムを開催いたします。この問題の第一人者である東洋大学経済学部の山谷修作教授が基調講演を行うほか、環境省や、有料化の成功事例として全国的に有名な東京都日野市など3自治体をパネラーに招きます。

東京23区も含めて今後ますます議論が高まっていくことが確実な有料化問題の、最新情報と全体像を俯瞰できるシンポジウムです。自治体関係者の方はもちろん、市民の方や事業者の方もぜひご参加ください！

- ◆日時 2008年11月26日(水) 午後1時30分～4時30分(開場1時)
- ◆会場 東京都大田区 大田区産業プラザ PiO・4階コンベンションホール 鷺
〒144-0035 東京都大田区南蒲田 1-20-20 TEL 03-3733-6600
京浜急行蒲田駅下車東口より徒歩3分、JR京浜東北線・東急池上・多摩川線蒲田駅下車東口より徒歩13分
- ◆入場料 無料
- ◆定員 180人
- ◆申込み 先着順。ファックス(06-6209-6685) or 郵便(〒541-0043 大阪市中央区高麗橋 1-3-4 小池高麗橋ビル4階) or メール(info@r-kyokai.org)で、お名前・ご住所・電話番号・所属(あれば)をNPO法人集めて使うリサイクル協会までお知らせください。申込受付が済み次第、折り返し受付票をお送りします。当日はこの受付票をご持参ください。

- 基調講演・シンポジウムコーディネーター＝東洋大学経済学部 山谷修作教授
(プロフィール) 専攻は環境政策。主な著書に『ごみ有料化』(丸善、公益事業学会賞受賞)、『実践・家庭ごみ有料化』(環境産業新聞社、共著)、『日本の公益事業』(白桃書房、共編著)、『ごみの百科事典』(丸善、共著)など。主な政府・自治体関係委員に経済産業省独立行政法人評価委員会臨時委員など。



- シンポジウム・パネラー

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課 水谷好洋氏
東京都日野市 環境共生部ごみゼロ推進課 課長 原正明氏
長野県上伊那広域連合 環境衛生課 課長補佐 唐澤修身氏
新潟県上越市 市民生活部生活環境課 課長 矢澤正勝氏

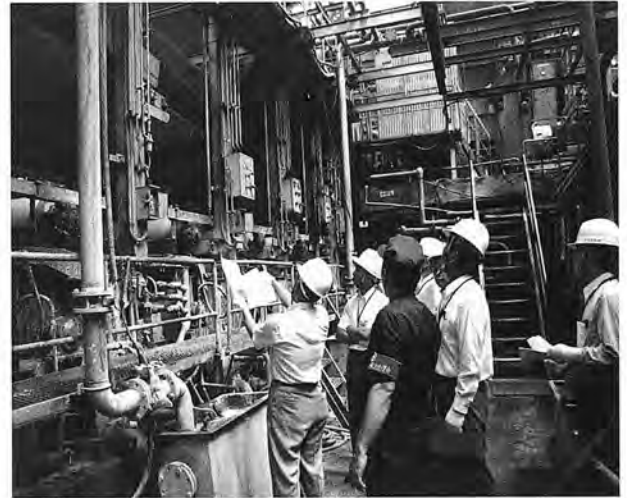
9/9 酒パックリサイクル現場見学会を開催

酒パックリサイクル促進協議会では、以前から会員企業の要望が多かった酒パックのリサイクル現場見学会を9月9日（火）に実施しました。見学先は大和板紙株式会社（大阪府柏原市）と紙好き交流センター（大阪府交野市）の2か所。参加企業は次のとおりです。

大関／菊政宗酒造／薩摩酒造／三和酒類／宝酒造／辰馬本家酒造／中埜酒造／日本盛／白鶴酒造／盛田／印刷工業会／アイピーアイ／大日本印刷／東京製紙／凸版印刷／日本テトラパック／北越パッケージ／集めて使うリサイクル協会（計18社 27名）

①大和板紙株式会社

灘・伏見の酒造メーカーの酒パック



板紙の抄紙機

今年7月からスタートした、灘地区・伏見地区酒造メーカーによる工場損紙統一リサイクル循環システム*の受け皿になっている「大和板紙」では、各企業から排出された酒パック損紙が板紙に再生されていく過程を、順を追って見学しました。

あくまで製紙原料として受け入れるものであるため、極力異物混入の無いよう協力してほしい旨の製紙工場からの要望を、各工程を見る中で各社真剣に受け止めていただきました。

***灘・伏見地区 酒パック循環型リサイクルシステム…日本酒メーカーが集積する灘地区（兵庫県）及び伏見地区（京都府）において、ゼロエミッションをめざす各社が協力して酒パックの工場損紙をリサイクルする仕組みです。回収された酒パックは大和板紙において板紙製品に再生され、それを各社が利用します。集めて使うリサイクル協会は酒パック再生品の開発・販売などを担っています。**

②紙好き交流センター



(右) 手すき工程の見学
(左) 酒パックのアルミ箔・ポリ
エチレン剥離実習

もう1か所の見学会場「紙好き交流センター」は、早くから酒パックを原料に紙すき事業を展開しており、全国450か所にのぼる障害者作業所に、はがきや名刺などの紙すき指導を行う中で、月産10万枚の生産能力を持つ作業所ネットワークを作り上げています。

ここでは見学者が実際に、酒パックのアルミ剥離やポリ剥離などを体験実習し、同時に熟練した障害者の手すき作業から生まれる各種の商品に魅入っていました。

普段見ることのないリサイクル現場の見学によって、自らが排出する酒パックが貴重な製紙原料として再生されていることを認識できた1日になりました。

<2008NEW 環境展>

9月18日～20日にインテックス大阪で開催された「2008NEW 環境展」に今年も出展しました。酒造メーカーをはじめ企業の酒パックリサイクルの取り組みを紹介、各種酒パック再生品の展示を行いました。(3日間の来場者数85,846人、主催者発表)

また全国350店舗に拡大した回収拠点「エコ酒屋」を理解してもらうため、回収BOX型の貯金箱を配布、来場者の関心呼びました。出展の様子は9月22日発行の「食品醸界新聞」の1面表紙を飾るなど一定の成果をあげています。



大阪市のごみ減量を考える連続ワークショップ 今後の日程

<第4回> 2008年10月31日(金) 午後1時30分～4時30分(開場1時)

テーマ/ごみとリサイクルの現場からの提案

ゲスト/市民団体・リサイクル事業者・ごみ収集事業者ほか

<第5回> 2009年1月29日(木) 午後1時30分～4時30分(開場1時)

テーマ/大阪市の家庭ごみ20%減量のための提案発表記念シンポジウム

ゲスト/大阪市環境局ほか

コーディネーター/森住明弘氏(大阪ごみを考える会代表理事)

◆会場 大阪・天満橋 OMMビル2階会議室(地下鉄谷町線天満橋駅、京阪本線天満橋駅下車すぐ)

◆入場料 無料 ◆定員 第4回は30名、第5回は60名。

◆主催 大阪市のごみ減量を考える連続ワークショップ実行委員会(参加団体/NPO法人ごみゼロネット大阪、NPO法人大阪ごみを考える会、NPO法人タウンズメン21、せいわエコサポーターズクラブ、NPO法人グリーンコンシューマー大阪ネットワーク、NPO法人集めて使うリサイクル協会 実行委員長=惣宇利紀男 <NPO法人ごみゼロネット大阪代表理事、大阪市立大学名誉教授>)

「大阪市のごみ減量を考える連続ワークショップ」開催中

やはり今年度の地球環境基金助成事業として、7月から「大阪市のごみ減量を考える連続ワークショップ」が始まりました。全5回の日程で、4回目までは毎回テーマを決めてゲストをお呼びし、大阪市におけるごみ問題の現状をさまざまな視点から勉強しています。

来年1月の第5回では、それらを踏まえて具体的に「大阪市の家庭ごみ 20%減量のための提案」をまとめ、発表します。

今後の日程は前ページに掲載していますが、第4回は10月31日に開催します。定員にはまだ若干余裕がありますので、ごみ問題に関心のある方はぜひご参加ください。(右の写真は9月26日の第3回の様子です)



<第1回>7月25日

はじめに大阪市環境局企画部の縣隆弘さんから、「大阪市のごみ処理の現状」について報告をいただきました。平成19年度の一般廃棄物総量は151.7万トンで、その約6割が事業系ごみでした。ごみ総量は同3年度をピークとして減少傾向にあり、焼却処理量で見ると19年度は3年度に比べて32%もの減少となっています。それでもなお政令指定都市の中で最も多いのが現状で、事業系ごみをどう減らすかが大きな課題です。また家庭系ごみについては、資源物の約3割が分別されずに普通ごみの日に排出されており、古紙類の集団回収や生ごみの家庭内処理による資源リサイクル、さらには無駄な買い物をやめたりマイバッグを持参するといったリデュースの取り組みをいかに促進するかが課題となります。

大阪市の報告に続いて、毎日放送元報道ディレクターの岸本文利さんから、長年にわたって大阪市のごみ問題取材してきた立場からの報告がありました。市長を先頭に市民総ぐるみの運動を展開して30%ものごみ減量を達成、焼却工場を2つ廃止した横浜市を例に、ごみ量が減っているのに焼却工場が減らず、さらに森之宮工場の建て替えを計画しているのはおかしいと指摘(なお、第1回ワークショップが開かれて間もない8月7日、大阪市の平松市長は森之宮工場の移転建設計画を凍結すると発表しました)。また、横浜市の成功は中田市長の決断が大きいとして、「トップが決断して市民と行政が協働していけば、横浜市でできたことを大阪市でできないはずがない」とエールを送りました。

<第2回>8月29日

「分別とごみ減量」をテーマに、名古屋市とごみゼロネット大阪から報告が行われました。名古屋市環境局事業部の野田浩行さんは、藤前干潟埋立問題をきっかけとして1999年にごみ非常事態宣言を発し、分別の徹底によって3割のごみ減量を達成した取り組みについて紹介。「当初は『これは何ごみ?』等の問い合わせが殺到したが、説明会をはじめとする地道な広報活動によってしだいに分別ルールが徹底されるようになった」「分別を細かくしたことによってコストはいったん上がったが、さまざまな経費削減策によって10年前の水準まで低下した」「集団回収については、通常の自治会や子供会による回収以外に学区協議会方式を取り入れている」などの点は大阪市にも非常に参考になるお話でした。

ごみゼロネット大阪事務局長の小林千恵さんは、大阪市・横浜市・名古屋市の3都市をさまざまな点から比較し、事業系ごみの多さと資源化率の低さを大阪市の特徴として挙げました。また、「大阪市のごみ回収はステーション回収と戸別回収の中間的形態で、分別徹底に関する監視の目が届きにくい」「横浜市はG30宣言、名古屋市はごみ非常事態宣言を出したことが効果的に働いている」等の点を指摘しました。

会員募集中! 入会金は不要です。循環型社会構築を目指す私たちの仲間になってください!

会員区分	年会費(非課税)
団体	正会員 60,000円
	賛助会員 10,000円
個人	正会員 6,000円
	賛助会員 1,000円

●「協会報」では、会員企業各社の環境活動や環境保全型商品の紹介を行っています。どんどん情報をお寄せください。

Eメール info@r-kyokai.org HP <http://www.r-kyokai.org/>